

第5回第二期高知市中心市街地活性化基本計画策定検討委員会 議事概要

○日時 平成29年11月17日(金) 10:00 ~ 12:00

○場所 高知市たかじょう庁舎 6階会議室

○出席者【委員10名】

委員長	広末 幸彦	委員	西村 修一
委員	早川 賢治	委員	小島 尚
委員	友田 由美	委員	亀川 代平
委員	高橋 政明	委員	大谷 聡
委員	北澤 和彦	委員	松本 明

【オブザーバー 5名】

池田 義明	尾下 一次
朝比奈 正敏	杉本 雅敏
橋詰 辰男	

【事務局】

高知市商工観光部 部長 松村 和明
高知市商工観光部 副部長 今西 剛也
高知市商工観光部商工振興課 課長 谷沿 新也
高知市商工観光部商工振興課 課長補佐 松岡 宏輔 外
株式会社第一コンサルタンツ

○次第

1 開会

2 議事 第二期高知市中心市街地活性化基本計画(素案)について(説明:事務局)

■質疑等

【委員長】

今後のスケジュールとしては、中心市街地活性化協議会が来週開かれ、有識者の皆さんのご意見を聞く予定となっている。申請後、国の認定を受けたら、来年4月からこの計画に基づいて5年間進めていき、その中でまた新事業等ができれば、その都度、柔軟に対応していくという姿勢で、継続性を持ちながら中心市街地の活性化を進めていく段取りになっている。

第二期計画についても、現行の計画と同様、PDCAサイクルを回しながら、フォローアップもしつつすすめていくことになっているので、本日は、その点も踏まえて、質問や意見などを積極的にお願いしたい。

【委員】

事務局から質問のあった、資料2 p21 参考指標③「周辺エリアの歩行者通行量」を残すか削除するかということであるが、この参考指標は、トレンドでは減少傾向にあって、平成28年の基準値4,731が平成34年には4,456人に下がるのを4,753人にあげていくものなので、何も取り組まないということではなく、活性化に向けて取り組んでいくためにも私は残した方がいいと思う。

計画案全体はバランスよくできている。今後はやはり市民の方や事業者がどう参画していくのが重要。従来型であれば、基本計画は、行政・専門家・事業者が作成し、具体化した後で市民に周知していたが、今は早い段階から市民さんに周知して、自分たちの街や地域はこういう方向に行っていて、こういう関わり方をする可能性があるのだということを、早い段階で知らせておくことが重要になってくる。

計画の各事業に対する住民・NPO・市民団体・事業者などの、関わり方のイメージがつくような情報をまとめて、今後、計画をパンフレットやWebに載せたりするときに、表現として考えていただきたい。

<事務局>

参考指標③については、内閣府のほうから、目標値への上がり幅が少ないという点で削除してはどうかという指摘があったので、本委員会でご意見をいただきたい。

事務局としては、松本委員からも発言いただいたように、数値目標としては残していきたいとは考えているが、皆様のご意見をいただいて、最終判断をさせていただきたい。

【委員】

特段の反対がなければ、残す方向でいかがか。

【委員長】

皆さんよろしいか。

(反対意見なし)

【委員長】

反対の意見もないので参考指標③は残すことにする。

計画や事業についての周知の仕方については、今後パブリックコメントも行っていくが、市民に対しても協力体制を仰ぎ、事業は積極的に展開していかないといけない。

【委員】

この計画は行政側で勝手に作った計画というようなことではなくて、市民や各団体、事業者などさまざまな方が関わっているというイメージがつきやすいような何らかの工夫をしていただきたい。

【委員】

費用負担についてであるが、計画に登載している事業のなかで、おそらく予算措置をすでに取っている事業もあれば、これから取っていく事業もあるかと思うが、たとえば行政からの補助金などがあるのかについて聞きたい。

<事務局>

費用負担については、本編の冊子に掲載していて、例えば「新庁舎建設事業」では社会資本整備総合交付金を活用している。国、県、市の補助があるものについては、記載しており、記載していないものについては、市が行うものについては市単独事業、その他については、事業者負担になる。

【委員長】

第一期計画が95%の進捗率となっていることから、やはり、計画に載った事業は、できることからどんどん取りかかっていたきたい。

【委員】

「観光案内所整備事業」は実施団体が高知市になっているが、高知県観光振興部も観光コンベンション協会と一緒にさまざまな取組をしているので、高知市だけではなく高知県とも連携してより良い観光案内所を整備してほしい。

【委員長】

事業主体が高知市としか記載していないので、すべての事業について言えることであるが、あらゆる関係機関と協力しながらやっていくことが、実効性につながってくると思うので、県市連携でよろしく願いたい。

【委員】

「高知大丸リニューアル事業」は事業期間が平成30～31年となっているが、実際は進めている段階であって、カード事業は11月30日から募集を始め、2月1日から、高知大丸の新カードが誕生する。従来の高知大丸でしか使えないカードではなく、信販会社と提携することによって、商店街でもご利用いただけるカードで、29年度、30年度にかけてスタートという状況。

リニューアルについても、来街者が増える対策の回遊できる場所として、我々のコンセプトとするみんなが集えるコミュニティセンター機能を有する百貨店にしていきたいと考えている。今まで、売場でほとんど割っていた小売面積を割いて、来店されたお客様がゆっくり集える、カフェなどのスペースを拡大していきながら、来街者を増やすことでまちの発展に尽くしていきたいと考えている。

【委員】

目標1「『すべての世代が永く住み続けられるまち』の実現」は評価指標として「中心市街地の居住人口の割合」を設定しているが、目標と評価指標がリンクしてないのではないかと。

全国的に見ても、中心市街地のように利便性の高いところに高齢層の方たちが流入して人口が増えている。中心市街地の高齢化率は、高知市全体の比率よりも高く、恐らく、将来的にもそのような状況が続く。高齢者の方たちの比率が上がることによってこの評価指標を達成することになるので、結局、「すべての世代が住むまち」とはならない。かつ、最近では、持ち家として住むのではなく、投資用として所有し賃貸用として貸し出しているため、「永く住む」ことには当たらないので、目標値と評価指標がずれていると考える。

については、計画策定にあたって、国との協議を含め、あとどの程度の調整期間があるのかにもよるが、もし、対応するのであれば、やり方は3つぐらいある。

一つ目は、評価指標はこのままでいく。二つ目は、参考指標を新たに設定して、年代別居住者数や中心市街地からの流出数などをフォローアップしていく。三つ目は、参考指標として設定するのではなく、評価指標のフォローアップの考え方に追記していくなどが考えられるがどうか。

<事務局>

二つ目の、参考指標を新規設定するご提案について一度、国と協議させていただく。修正が難しいようであれば、三つ目のご提案にあった、フォローアップで補完する方法で対応させていただく。

【委員】

要約版のp27に「芸術文化振興事業」があるが、事業内容にまんが関係の記載がない。本編のほうで整合が取れているのか。

<事務局>

かるぽーとで実施する事業は「芸術文化振興事業」と「まんがイベント事業」の2事業になっており、p27に「芸術文化振興事業」を、p28に「まんがイベント事業」掲載している。なお、本編のほうでは、両事業とも7章に掲載している。

【委員】

経済活力向上に寄与する「空き店舗対策事業」や「創業支援情報発信事業」などは、本編p39にあるコレスポネンス分析でも「必要と感じている取組」が消費活動とあるので、高知商工会議所青年部としてもバックアップし、連携して推進していきたいと思う。

また、東側エリアのほうが回遊する人が少ないということであるが、そちらのエリアに出店する場合は補助率を上げるなど、税や補助金で人のながれを動かすというのも、一つの方法ではないかと思う。

<事務局>

空き店舗対策については、創業支援に関する補助金を昨年度見直し、商店街エリアでの出店に対する補助率を改定した。ご意見のとおり、今年度に入り、補助金の申請件数が、西側のほうに非常に増え始めているという状況にある。歩行者通行量が増えてくるとやはり、ビジネス

チャンスということもあって、出店が増えてくるという印象を持っている。出店状況や補助金の活用状況を見て、必要に応じその補助金のあり方などを今後検討していければと思う。

【委員】

個々のさまざまな事業が、単体で進むのではなく、互いに連携しながら推進していくことで素晴らしい施策になっていくと思う。今後、それぞれの事業の進め方と、互いにどのように連携しあうのかという仕組みづくりを検討し、商店街としても参加し、連携して取り組むことでさらなる活性化を図っていききたいと思う。

【委員長】

商店街にとってはやはり中心市街地が必要で、行政が計画を策定し国の認定を受けていくので、商店街で経営しているプレイヤーは顧客目線、市民目線、県民目線でどう取り組んでいくのが責務になってくる。

【委員】

「オーテピアにおけるソフト事業」について、年間来館者すう 100 万人と言われるオーテピアであるが、具体的にどんなイメージであるのか、日曜日や商店街と図書館がどのように連携するのかを教えていただきたい。

<事務局>

オーテピアへの来館が 100 万人ということで、まずは人の流れが生まれ、回遊性の向上が一番大きな効果であると認識している。

ソフト事業の具体例をあげると、商店街のほうで現在行っている「高知まちゼミ」にオーテピアとしても参加をするとか、日曜市の取組では、例えば日曜日に関連する図書やパンフレット等を図書館に展示することによっての相乗効果を図る。具体的にあげると現在も実施していることはあるし、今後も取り組んでいけることがあると思うが、実施にあたってはオーテピアだけでできる話ではなく、商店街にも参加していただき、相乗的に活性化していきたいと考えている。

【委員長】

委員の皆さんから様々なご意見をいただいた。計画案が完成したが、今後、修正等が出た場合、委員会を再度開催は時間的にも難しいと思うので、委員長と事務局に一任ということによるしいか。

(異議なし)

【委員長】

今後は国へ申請し、認定を受けた後はスタートとなるが、周知徹底もしていかないといけないのでよろしく願います。

3 その他

事務局から、今後のスケジュールについて説明

4 閉会

以上